



秋の文化講座

「天明天保の飢饉 尾道もざわついた。」

～古文書から読みとく200年前の尾道へ～」について

9 / 3 0 (日) 10:30～11:30

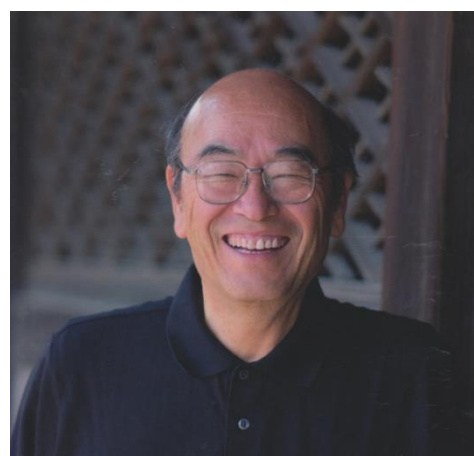
講師 半田 堅二さん

場所 因島図書館視聴覚室

定員 40人(要申込)



【慈観寺】天保の大飢饉の際、当時の町年寄りの橋本竹下が、その救済事業として本堂の改築を発願したと言われています。



半田 堅二さん

尾道学研究会古文書担当

尾道市立図書館古文書講座講師

尾道は、飢饉の際にどのように対処したのか気になっていました。一説には、「尾道において死んだ者は居ない」と聞いています。それで、天明と天保の飢饉の頃の文書を重点的に読みました。すると、結構な量の飢饉関連の古文書が出てきたので、一冊にまとめることにしました。ひとつひとつの古文書をつなぎ合わせ、なるべく年代順に並べると、尾道が飢饉をどう乗り越えたのかが見えてきたように思います。 —本文より